

研究報告

すり足に関する研究（第一報）：生成を水田農耕に観る
A Study on the SURIASHI / SHUFFLING in Consideration of
Its Generating with Relation to Japanese Rice Field Farming

井下 英樹
Hideki Ishita

Abstract

The purpose of this study is to clarify the generating processes of SURIASHI/SHUFFLING that is observed through precedent studies on the embodied functioning with relation to Japanese rice field farming. In this study, the cultural and historical consideration for the SURIASHI has been cast on its root causes aiming at the problems of standing work culture in the view of semantics on bipedal locomotion. As a result, it was made clear that the SURIASHI had been generated by its characteristic embodied functioning and its HABITUS with relation to the rice field farming. In addition, it can be said that the characteristics of SURIASHI has made the embodied culture and spiritual culture coincide with the basis of traditional Japanese culture throughout generations.

キーワード 二足ロコモーション・からだ働き・立ち働き性文化・ハビトゥス
bipedal locomotion・embodied functioning・standing work culture・
HABITUS

I はじめに

時代劇で着物姿の女性が廊下を滑るように歩むシーンをしばしば観る。こうした歩き方は一見非合理的に思える。なぜなら当該動作は既に現代の日常生活の中に存在していない。真似して歩いてみればたいていのはぎこちない動作と感ずることであろう。それほど現代人からかけ離れた動作である。われわれにとって習慣にないことは理解することや伝達することも至難である。前出の例示動作は舞踊をはじめとする芸能や武芸などに残っているのだが特別に嗜まない限り経験することもない。現代人は手を大

きく振って歩いている。このストライド方式歩行が一般的であって合理的な歩行動作であるとも思える。しかし、かつての前述のような動作が現在もわずかながら伝承文化の中に残っているということは、何かの存在理由があつてのことと仮定することができる。

「すり足」という言葉がある。前述の動作もこの言葉で示し得る。また相撲にも「すり足」と呼ばれる動きがある。こちらは腰を深く落としてやはり地面を摺るように前進する動作である。このように地面を滑るようなあるいは摺るような歩法を形成させたのは何なのか。本研究